

## 慶應義塾大学日吉キャンパス特色 GP 事業 1

### 京都大学総合人間学部視察報告書

2007年5月21日

法学部教授 日吉物理学教室 下村 裕

2006年7月10日(月)、午後12時半より午後5時まで京都大学総合人間学部を下村裕が視察した。総合人間学部で長期間に亘り大規模に運用されている副専攻制の現状を調べる事が主要目的であった。視察では以下の順に説明を受け、また見学や意見交換を行った。そして実験室や実験授業風景等の写真や多くの文書資料・実験テキストを得た。

12:30-13:00 田川義人総合人間学部教務掛長による学部と副専攻制の説明。

13:00-13:15 自然科学系主任の宮元嘉久教授(物理学)による実験授業説明。

13:15-14:00 実験サポート教員の案内による基礎物理学実験の見学。

14:00-14:15 宮元嘉久教授担当の実験授業(課題演習:物理化学・構造と物性)見学。

14:15-16:15 教務委員長の西井正弘教授(法学)による、カリキュラムの変遷と副専攻を中心とした内容の説明。

16:15-17:00 宮元嘉久教授との意見交換。

親切にご対応いただいた方々へここに謝意を表し、上記視察の報告を以下に記す。

人間総合学部には、人間科学系、認知情報学系、国際文明学系、文化環境学系、自然科学系という5学系があり、1学年定員は120名である。学生は、入学試験の形態にかかわらず入学後1年間ほどの学系にも属さず、2年進級時に主専攻を決めて学系に所属する。今回の視察の主要なテーマである副専攻制度は、平成5年度の学部開設時より設けられている。副専攻制度は、各自が所属する学系の専門分野以外の特定の分野を系統的に履修する制度であり、副専攻を修得することは卒業の必須要件である。なお、副専攻分野はいつでも変更可能であるが、学生は指導教員と相談の上、各自選択する。副専攻を修得した証として、学士の学位記とは別に、別紙1のような副専攻名を記した認定書が学部長名で発行される。5学系の内、認知情報学系と自然科学系は比較的理系的な要素の多い学系である。したがって、それ以外の学系に所属する学生がこれら2学系を副専攻とする場合は、大まかに言って文系学生が理系分野を副専攻としたことに対応する。別紙2の平成18年度副専攻分野調査によると、その割合は各学年について全体の2割程度である。

基礎物理学実験は原則として2人一組で実験を行うもので、テーマごとに部屋が分かれており、日吉の物理学実験より恵まれた教育環境を有しているようであったが、参考になるテーマや実験方法の工夫に関する情報が得られた。

また、宮元嘉久教授担当の実験授業は、4,5人の学生が半期で一つのテーマに関する実験を行い、レポートをまとめる形態の授業であった。学生にインタビューしたところ、「負担が多いもののやりがいのある科目」という意見であった。